

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 2 授業例②

S.K. 先生

指導計画表

(全 11 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ■単元を貫く活動の設定 ・プレ活動
2	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■GET Part 2 ・本文の導入 ・語句・表現の導入 ・文法の導入 ・コミュニケーション活動
3	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■GET Part 2 ・本文の導入 ・語句・表現の導入 ・文法の導入 ・コミュニケーション活動
4	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■USE Read1 ・本文の導入 ・語句・表現の導入 ・Q&A による内容理解 ・音読練習 ・コミュニケーション活動
5	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■USE Read 2 本文の復習 音読練習 コミュニケーション活動
6	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■USE Listen 題材の導入 聞き取り

時間	学習内容・主な活動
7	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■USE Speak ・題材の確認 ・聞き取り ・コミュニケーション活動
8~9	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■単元を貫く活動 ・レポート作成
10	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■単元を貫く活動 ・レポート交流 ・レポート改善
11	<ul style="list-style-type: none"> ■帯活動 ■単元を貫く活動 ・レポート交流 ・コミュニケーション活動

実践例

1. 即興的に自分の考えや気持ちを表現できる生徒の育成を目指して

3年生 LESSON 2 は、GET で現在完了形の継続用法について学習し、その言語材料を活用しながら USE でフィンランドに関する紹介記事を読み取ったり、あこがれの人物についてインタビューをしたりすることを通して、現在完了形の継続用法の定着を目指すレッスンである。単元のゴールの活動としてインタビュー活動を設定すると、あらかじめ準備しておいた原稿に頼ることなく、互いのあこがれの人物について即興的に自分の考えを仲間と交流できる力を伸ばす指導の工夫が必要だと考えた。

2. 帯活動で即興性を磨く

単元のゴールの活動であるインタビュー活動へ向けて、第1時にそれまで習得してきた言語材料を駆使して、あこがれの人物についてレポートを書く活動を設定した。下記は、生徒の表現の一部である。

My favorite person is Shotoku Taishi. He was a politician. He made a Horyu-ji temple. I like him because he listened to and thought about many people.

教師は、このオリエンテーションで多くの生徒が表現したい内容をつかみ、その内容に類似したキーワードを記載した下記のような絵カードを作成した。

↓絵カードの例 絵カードを見て表現する内容↓



有名人の顔写真

Name : ○○
 From : □□
 Job : △△
 Why famous : ▽
 How long : ◇

Name
 This is my favorite person, ○○.

From
 ○○ is from □□.

Job
 ○○ is a famous △△.

Why famous
 ○○ is a member of ▽. ... など

How long
 We have known about ○○ since / for ◇.

絵カードは、USE Read が終了し、USE Listen のインタビューを聞き取る時間に、単元の導入のプレ活動で生徒が表現したレポートを取り上げながら導入した。生徒は、絵カードに記載されているキーワードをもとに、仲間と表現を確認し合いながらその人物について英語で紹介できるまで毎時間帯活動として表現を練習した。どの生徒にも表現が定着してきたタイミングで、絵カードの人物について質問したり、答えたりするやりとりへと変化させた。下記は、そのやりとりの一部である。

S1 : This is my favorite person, John Lennon.
 S2 : I know him. He was a great singer.
 S1 : Yes. He was a member of the Beatles.
 S2 : How long have you known about him?
 S1 : I have known about him for ten years.
 S2 : Ten years. I see.
 S1 : I like him because he was very famous around the world.

絵カードに記載された人物について説明したり、質問したりすることを通して、単元のゴールの活動で使いたい表現を生徒は練習することができ、原稿に書いたものを覚えることなく、自分のあこがれの人物について仲間とインタビューし合うことができた。

3. LESSON2 指導の具体例

① 題材や本文の導入

題材や本文の導入では、教師が一方的に内容について説明せず、デジタル教科書の画像や教師が準備しておいた絵や写真などの視覚的なヒントを生徒に示しながら、生徒と英語でやりとりして進めるように心がけている。本単元では、フィンランドを題材に下記のようなやりとりを行った。

T : (オーロラの写真を示しながら) Look at this picture. What's this?
 S : Aurora.
 T : That's right. This is aurora.
 S : It's beautiful.
 T : I think so too. Do you want to see it?
 S : Yes! I want to see it.

T: OK. How about this? (ムーミンの写真を提示する) Do you want to see it too?
 S: Oh, it's Moomin! I love Moomin.
 T: Me too. We can see aurora and Moomin in the same place. Where are this aurora and Moomin from?
 S: They are from Finland.
 T: That's right. From today, we are going to study about the country of forests and lake, Finland...

生徒と英語でやりとりしながら進めることで、生徒の英語の使用場を増やして即興性を磨くだけでなく、どの生徒も仲間の反応をもとにしながら教科書内容をつかむことができるので、生徒の学習意欲へとつなげることができていると感じている。

②新出単語の導入

本文の内容を導入し、生徒が内容の概要をつかんだ後、新出単語の導入を行った。英語学習につまずきを感じている生徒の多くは、英単語の正確な発音と意味、つづりが定着していない。限られた時間、全ての生徒が集中して正確な発音と意味、つづりを練習できるように丁寧に指導した。

【単語の導入の流れ】

- ①デジタル教科書のフラッシュカードを開く
- ②英語と日本語が出てくる設定にし、生徒は教師の正しい発音を聞いたり、口元を真似したりしながらリピートする
 *ALTがいる時は音声をオフにし、ALTの手本をもとにリピートする
- ③順番をランダムにして、生徒が正確に発音できているか確認する
 *多くの生徒が間違えて発音している場合は、中断して繰り返し練習する
- ④英語だけ出てくる設定にし、生徒がアクセントやイントネーションを意識して発音できているか確認する
- ⑤日本語だけ出てくる設定にし、英語と日本語の意味が結びついているか確認する

⑥少人数グループで正確な発音ができているかということや、日本語の意味を確認する

⑦少人数で単語を発音する場面を設定し、正確な発音ができているか確認する
 例)生活グループで班代表を出し、正確な発音ができるかどうか競争する

⑧ワークシートに正確なつづりと日本語の意味を記入して、練習する時間を設定する

即興的に自分の気持ちや考えを相手に伝える際、英語を使いこなすことができない生徒の多くが、1単語や2単語で伝えたいことを表現することは少ない。1単語でも対話が成立する場合があることを生徒に念を押しながら指導すると、意欲的に発音したり、つづりの練習をしたりする生徒が増えた。

③GETにおけるコミュニケーション活動

本単元のGETは、現在完了の継続用法を学びつつ、単元の終末の活動であるインタビューが扱われている。その流れを感じながら、本時の展開の後半には、仲間にスポーツや趣味、習い事について交流し合うコミュニケーション活動を設定した。

【コミュニケーション活動の流れ】

Practice1 Listen (p.13)

・現在完了の継続用法を用いたテイラー先生に関する情報を正確に聞き取り、メモをもとにテイラー先生について説明する

MEMO

日本語：学生の時に学び始め、学習歴7年
 日本滞在：2010年に来日
 この町に住んで約4年
 テニス：プレー歴6ヶ月

生徒がメモをもとに作成した英文

- ・ Mr Taylor has studied Japanese for 7 years.
- ・ He has lived in this town since 2010.
- ・ He has played tennis for only six month.

Practice2 Speak (p.13)

・スポーツや趣味、習い事など、自分が長く続けていることについてペアと伝え合う

黒板の板書

テニス：プレー歴2年（中学校1年生から）

I have played tennis for two years.

I have played tennis since I was in the first grade of this school.

生徒がペアの仲間について説明した表現

・○○ has played tennis since (he/she) was in the first grade of this school.

Practice2 Speak (p.15)

・スポーツや趣味、習い事などについて、どのくらいの期間続けているのかペアと伝え合う

生徒のやりとりの例

S1 : My favorite sport is basketball.

What is your favorite sport?

S2 : My favorite sport is tennis.

S1 : How long have you played it?

S2 : I have played it for two years.

How about you?

How long have you played basketball?

S1 : I have played it since I was five.

S2 : You have played basketball for about ten years! That's great!

Practice の段階的な指導により、事前に英文を書かなくても、教科書の例文を参考にしながら生徒は即興的に現在完了形の継続用法を活用して、自分が続けていることを仲間と交流することができた。

④USE Read の読み取り

教科書題材を用いた活動では、本文内容に関する設問に対して答える活動を通して話の概要を理解し、音読練習の工夫を行った後、理解したことを英語で説明する場（リテリング）を位置付けて指導した。

【リテリングの流れ】

USE Read (pp.16-17)

- ・本文内容に関する設問(In-Reading)
- ・音読練習(ペアや個人で繰り返し)
- ・リテリング(ペアで表現を確認し合う)

生徒の表現の例：

(教科書のピクチャーカードが印刷されたワーク

シートを示しながら)

Look at this picture. This is Finland. Finland is a country of forests and lakes. Nature is important for Finns. Summer is short and winter is long there.

In Reading を通して理解したことを基礎としながら、生徒は内容を表す絵をヒントにして、即興的にフィンランドの紹介記事についてペアに伝えることができた。また、リテリングの活動を通して、生徒が教科書本文から何を理解することができたのか、教師は把握することができた。そして、生徒は自分が伝えたい内容を説明する方法を身に付け、ゴールの活動につなげることができた。

また、即興性を磨いていく指導の一方で、表現の正確さの指導をするために、リテリングの後にペアに伝えた内容を書きまとめる時間を位置付けた。生徒が書きまとめた英文に、教師が記号（表1）を使って評価し、生徒は次回の学習で誤りについて自分で訂正するという流れで指導を行った。生徒が教科書表現をもとに個人追究をした後、仲間と訂正した内容を学び合うことで、即興的に話したり説明したりすることと同じように、正確に書くことにも力を入れて指導することができた。この活動は、GET や USE Read で有効だと考えている。

【表1 誤りを指摘する記号の例】

☆	仲間に広めたい素晴らしい表現
?	語順の誤り
	時制、3単現のs、名詞の複数形のsの誤り
△	単語のスペリングミス
V	単語が抜けている

⑤単元のゴールの活動

本単元では、単元のゴールに自分の憧れの人物についてインタビューする活動を位置付けた。その際、その人物の魅力が相手に伝わるように意識して指導を行った。

【憧れの人物について交流し合う流れ】

USE Speak (p.19)

- ・絵カードを用いた帯活動で表現を定着する
- ・聞き取りを通してやりとりの概要を確認する

- ・憧れの人物に関するポスターを作成する

ポスターに記載する内容(英文は書かない)

- ・その人物を象徴する写真
- ・その人物にまつわるキーワード
(職業/出身地/なぜ有名なのかなど)
- ・憧れている理由や、どのくらいの期間好きなのかについてのキーワード
- ・ポスターを用いて、ペアとインタビューのやり取りをする
- ・ALTに憧れの人物についてインタビューしたり、自分の憧れている人物についてALTの質問に適切に答えたりする
- ・ポスターを用いて表現した内容を、レポートとして書きまとめる。

生徒が書きまとめた英文の例

My favorite person is Kuwata Keisuke. Because he is very cool. And I became happy when I listen to his songs. I think that he is a great musician. I have known about him since I was six years old. My father is a big fan of him. I often go to his concert with my father. I have his CDs. I like “愛しのエリー” the best.

仲間からの質問に答えることを通して、憧れの人物についての魅力が伝わる表現を付け加えることができた生徒が多かった。また、仲間の表現のよさを学び合って、自分の表現に積極的に取り入れるように意識して声をかけたことで、どの生徒も現在完了形の継続用法を用いながら、憧れの人物について説明したり、仲間の質問に即興的に答えたりすることができた。

4. 即興性が磨かれる授業を目指して

生徒が即興的に英語で対話できるようになるためには、帯活動や言語材料を活用する時間をゴールの活動につなげながら充実させ、繰り返し練習を重ねていくことが重要であると考えている。